

八幡平市の伝承を国内外問わず多くの人に伝えたい

絵本『だんぶりちようじゃの
たからもの』英訳版を出版

加藤 美南子さん

カトウ・ミナコ 73歳 北奇木



昭和17年生まれ。千葉県出身。平成8年に家族で神奈川から八幡平市に移住する。現在、市を中心に北東北の魅力を発信する個人活動を展開している。八幡平市の伝説を基に自身が出した絵本『だんぶりちようじゃのたからもの』を英訳し、新たに出版。A型のおとめ座。

「八幡平市には素晴らしい伝承が多く存在します。それらを、市民はじめ、国内外の多くの人に知ってほしい」と、微笑みを浮かべるのは、4月に絵本『だんぶりちようじゃのたからもの』英訳版を出版した加藤美南子さん。

美南子さんは、息子さんの持病治療のために、約20年前に水や空気のきれいな自然溢れる八幡平市を選び移住。同じく関東から本市に移住してきた友人の沼田博子さん(西根寺田)に、国際化の時代に、市に外国人観光客が訪れても地域文化を伝えられないのもったいない。ぜひ書いてほしいと強く勧められ、平成24年に出版していた同絵本の英訳に取り掛かりました。



挿絵も自ら描く美南子さん
絵本は市教育委員会を通じて、市内小中学校に寄贈されました

「大学の英米文学科で学んでいたと言っても50年前のこと。今回の出版までには、かなりの苦労がありました」と語る美南子さん。市の外国語指導助手ジェイソン・ヒルさんの手伝いもあり、英訳版は2年越しに完成の運びになりました。

※絵本『THE TREASURES OF DANBURI CHOJA』(だんぶりちようじゃのたからもの英訳版)は、サイズ 212^{mm}×242^{mm} 40ページ、1,200円(税別)で、ツーワンライフ出版から発行

編集後記

▽ 山開きの取材で国立公園八幡平へ行きました。山岳隊の人たちを写真に収めながら、自然豊かな八幡平を感じ、すれ違う人と挨拶を交わしながら、気分良く春の八幡平を満喫して駐車場の車に戻った時、血の気が引く感覚が。車のキーが無い…。その後は、不安と絶望のなか八幡平中を歩き、残雪に反射した光が目刺さるよう眩しく、でも必死で目を開いて鍵を探しました。半ば諦めながら下山し、いちろの望みを託して山頂レストハウスへ行き、店員に尋ねたところ「鍵が届いてます」。持ち物の取り扱いには注意しようとして誓いました。(龍)

▽ 健診・検診の特集記事を書いているなか、婦人科検診があり受診してきました。結果が出るまでそわそわしますが、出た後の行動がまた大事。一喜一憂することなく、日々意識して体のことを考えたいです。▽ 左の写真は、田頭第14地割界隈に立つ一本桃(仮称)。濃淡の桃色と白の3色が同じ木に混在した珍しい桃の木です。市民からの情報提供があり撮影に。市の新名所となるか。(沙)

